

連携のきっかけづくりのコツ・秘訣

産業振興を目指して医商工連携促進

キーワード：医商工連携・研究会発足・大学間連携・先進事例

体制整備

本事例の関係者
 札幌医科大学
 小樽商科大学
 室蘭工業大学
 北海道立工業試験場
 北海道中小企業家同友会産学官連携研究会
 文部科学省産学官連携
 コーディネーター

具体的な3大学の連携ができた

【要約】

札幌医科大学、小樽商科大学、室蘭工業大学は、大学間それぞれによる包括連携協定を結んでおり、医商工連携の素地はあったが、具体的な地域連携活動には至っていない。

平成20年7月に、3大学の地域共同研究センター等と北海道立工業試験場の産学官連携担当者が発起人となって、北海道医療産業研究会を設立し、平成20年度は3回のセミナー開催を行った。

現任の札幌医科大学・小樽商科大学を支援しているコーディネーターは、研究会設立後の幹事会から加わり、3大学・公設試問の調整役を担うとともに、平成20年度のセミナー企画・運営や、平成21年度以降の活動方針と規約の整備、活動予算の調整を行った。平成21年度活動と予算要求について合意が得られ、各大学の活動の足並みが揃ったところである。

【きっかけ】

● **病院ニーズを活かした地域産業支援の実現性**

札幌医科大学と小樽商科大学では、前任のコーディネーター（現助教）が中心となって、病院や介護現場のニーズ発掘を地域企業の製品開発につなぐ取り組みを行ってきた。しかし、製品開発やニーズの具体化が課題であった。

● **工学的視点を加えて研究会を設立**

医工連携の先進事例を参考に、札幌医科大学、小樽商科大学のそれぞれが連携協定を結んでいる室蘭工業大学と連携し、さらに、地域企業とつながりの深い北海道立工業試験場と連携して研究会を設立するに至った。

【段取り・7ヶ月】

● **研究会発足**

- ・各大学地域共同研究センターなどのセンター長の了解を得てスタートした。
- ・北海道中小企業家同友会産学官連携研究会（HOPE）の補助金を受け、ものづくりや、IT企業の医療関連産業への進出に資するセミナー開催を事業とする。
- ・平成21年度以降の統一された具体的な活動イメージはなかった。

● **研究会運営**

- ・室蘭工業大学及び小樽商科大学の各地域共同研究センター等のセンター長、札幌医科大学附属産学・地域連携センター助教（前任の文部科学省産学官連携コーディネーター）、室蘭工業大学及び札幌医科大学・小樽商科大学のコーディネーター及び北海道立工業試験場（2名）の幹事（合計7名）で、8月から幹事会が運営された。
- ・セミナー企画・開催、研究会規約整備、コンセンサス構築。
- ・平成21年度研究会活動費を各大学センターで予算要求することに合意。
- ・平成21年度会員募集を開始（平成21年3月末）。

【成果・結果や活動後の変化】

- ・ストーリーのあるセミナーを3回開催。
- ・地元医療関連用具・器具販売商社や機械工業会からの協力を獲得。
- ・札幌医科大学附属病院だけでなく、小樽、室蘭などの病院ニーズを的確にとらえるためのシステムづくり。

北海道医療産業研究会 第2回セミナー
 ～医療産業界への進出のポイントを探る～

北海道医療産業研究会から、第2回セミナーを開催いたします。今回は、医療産業関係者を集めていただく神戸府の先進的な取り組みを紹介いたします。また、前回は、北海道産学官連携研究会から、産学官連携研究会の発足について紹介いたしました。さらにもっと進んだ内容です。多くの参加をお待ちしております。

特別講演1 17:40～17:55（講演45分、質疑応答15分）
 テーマ：地域中小企業の医療・福祉機器分野への進出と医工連携人材育成
 講師：（財）神戸府産業振興財団 理事 医学連携推進コーディネーター 神谷 元 氏
 神戸市で、神戸市産業振興財団が主催するセミナー、毎年1回開催されています。第13回は、産学官連携の重要性が、人材育成にまでつながるというお話です。一方、地域中小企業から、産学官連携の重要性が、産学官連携推進研究会を通じて変わりました。産学官連携の重要性が、人材育成にもつながるというお話です。神戸市立大学に産学官連携推進研究会を設立し、産学官連携推進研究会が主催するセミナー、毎年1回開催されています。このセミナーは、産学官連携推進研究会が主催するセミナーです。このセミナーは、産学官連携推進研究会が主催するセミナーです。

特別講演2 18:10～18:25（講演45分、質疑応答15分）
 テーマ：医療機器のニーズと産学官連携の現状
 講師：株式会社ミトモ 本部長 取締役 執行役員 開発 飯島 良 氏
 株式会社ミトモは、医療機器の開発・製造・販売の総合メーカーです。産学官連携推進研究会を通じて、産学官連携の重要性が、人材育成にもつながるというお話です。一方、地域中小企業から、産学官連携の重要性が、産学官連携推進研究会を通じて変わりました。産学官連携の重要性が、人材育成にもつながるというお話です。神戸市立大学に産学官連携推進研究会を設立し、産学官連携推進研究会が主催するセミナー、毎年1回開催されています。このセミナーは、産学官連携推進研究会が主催するセミナーです。このセミナーは、産学官連携推進研究会が主催するセミナーです。

日時 平成21年2月19日（水）17:30～19:40（17:30開場、交流会19:40～20:40）
 会場 JSTインフォメーションプラザ北海道 1階セミナー室（札幌市北区南一条西11）
 参加費 無料（交流会参加の方は、1,000円） ※先着順（名額まで）（札幌市北区南一条西11）
 主催 北海道医療産業研究会
 後援 北海道中小企業家同友会産学官連携研究会HOPE
 協賛 札幌医科大学、小樽商科大学、室蘭工業大学

第2回セミナー案内

セミナー開催
 H20年7月
 研究会発足
 補助事業応募
 H20年11月
 第1回セミナー
 H21年1月
 第2回セミナー
 H21年3月末
 第3回セミナー

成功の事例

連載ストーリーで企業・行政を惹きつける

●先進事例をしっかりと学ぶ

北海道庁と連携することにより、道内の医療器具機器製造販売業の現状をある程度理解できていたが、研究会としての具体的な支援方策を模索していた。

第1回セミナーで山梨大学のコーディネーターを招き、「医療関連ものづくり交流会」の事例を学ぶことができた。これにより、研究会の活動の方向性や、平成21年度以降の事業について明確な方針案を出し、検討することができた。

●企業・行政を惹きつけるストーリー

北海道医療産業研究会では、ものづくり・IT企業の医療関連産業へ興味を醸成することが重要である。また、研究会自体、知名度が低いため、企業のセミナー参加数が危惧された。

研究会のセミナーでは、「医療関連産業への進出のポイントを探る」をテーマに、産学官連携と薬事法（第1回）、先進事例と医療関連商社の取組（第2回）、札幌医科大学と企業のニーズ発掘の取組みと研究会の事業計画・会員募集（第3回）として、セミナーが連載のストーリーとなるように企画を行った。回を重ねるごとに参加企業数が増加した。

体制整備



セミナーの開催状況

失敗の事例

大学間の足並み揃えに留意するべきだった

●大学への趣旨・状況説明の頻度が少なかった

コーディネーターとして支援を開始して間もないときに手がけ始めたので、大学ごとに意思決定の流れが異なることを理解していなかった。また、地域共同研究センター等のセンター長が幹事となっている大学と、そうではない大学とで、意思決定のスピードが異なり、足並みがそろわないことが多々あった。

しかし、経験を重ねたことで、各大学の動きについて連絡を密に取ることで把握し、スムーズな合意形成を行うことができるようになった。

●セミナーの企画調整に手間取った

平成20年度は、セミナー3回開催を事業としていた。しかし、第1回セミナーが11月、第2回が2月、第3回が3月となり、回を重ねるごとに、講師や幹事の日程調整が困難になっていった。

研究会発足が7月だったこともあるが、年度初めに事業計画立案を綿密に行う必要性を実感している。

成功と失敗の 分かれ道

地元企業を想い、病院現場を想い続ける熱意が共有され、各センターの理解が得られたこと。

産学官連携の新たな展開に向けた提言

異なる分野の連携により新たな効果

●ニーズの発掘の新たな現場を認識

現在、札幌医科大学で行っている附属病院ニーズ発の製品開発への取組み、過去に行った小樽商科大学と札幌医科大学による介護現場のニーズ発掘の取組みを通じて、ニーズ発掘の重要性を認識した。北海道医療産業研究会設立後も、ニーズ発掘の重要性に変わりはないが、研究会の発足により、病院発のニーズに加えて、すでに企業が発掘し、日の目を見ていないニーズがあることを認識できた。

●企業との連携の広がり期待

室蘭工業大学、北海道立工業試験場との連携により、各機関がこれまで連携してきた企業との連携が期待できる。会員募集は平成21年度（平成21年3月）からを予定しているが、地元製造業からの引き合いが増えている。

☆コーディネーターの一言

これまでの病院ニーズを製品開発につなげる取り組みの支援を通じ、ニーズの発掘とニーズの評価が製品開発の最も重要な部分であると考えている。